

		<ul style="list-style-type: none"> ● チェックシートに基づくデスクレビュー（インタビューによる確認、証拠書類の確認） ● QA/QC の確認（教育・訓練記録、機器の点検・較正記録、内部監査記録、情報の管理状況、データの確認状況） ● モニタリングデータの確認（調査野帳データ（胸高直径、樹高）、森林施業計画（林齢）、施業図（面積）） ● モニタリング実施状況の確認（モニタリングプロット訪問） ● 当日所見報告書の作成・一時的合意 				
排出削減・ 吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012(～11/30)
	t-CO2	139.35	303.14	582.34	739.42	568.12
検証結果の要約		<p>本検証では、妥当性確認・検証ガイドライン(Ver.2.2)を検証基準として、グリーンプラス株式会社が実施する「長崎県日本伝統建築を支える森の CO2 吸収事業」のモニタリング報告書がプロジェクト計画書(Ver.1.4)、モニタリング計画書(Ver.1.4)、モニタリング方法ガイドライン(森林管理プロジェクト用)(Ver.4.2)及び方法論 R001(Ver.6.0)に準拠しているかどうかについて確認した。</p> <p>検証の結果、モニタリング報告書(Ver.1.6)は、J-VER制度におけるプロジェクト計画書(Ver.1.4)等に準拠していることを確認した。また、重要性は、検出された誤りが全て修正されたことで、量的基準(吸収量の5%以内)を満たしていることを確認した。なお、2008年4月1日～2012年11月30日の4年8ヶ月間における本プロジェクトでの吸収量は2,332t-CO₂である。</p> <p>従って、本プロジェクトのモニタリング報告書(Ver.1.6)は無限定適正である。以上により、本プロジェクトの認証をオフセット・クレジット(J-VER)認証委員会へ申請することを推奨する。</p>				

ⁱ 審査担当者、レビュー担当者、外部専門家を含み、それぞれの役割を記載すること。

ⁱⁱ 検証機関がプロジェクト代表事業者等からモニタリング報告書を受領した日を記載すること（この日を以て当該検証の開始日とみなす）。